

告示	番号	80	慢性心疾患
	疾病名	末梢性肺動脈狭窄症	

末梢性肺動脈狭窄症

まっしょうせいはいどうみゃくきょうさくしょう

概念・定義

主肺動脈から左右肺動脈,さらに末梢での血管性狭窄である。種々の部位で狭窄となり,単独の狭窄もあるが,多くは多発性である。中心部肺動脈の狭窄であれば手術で拡大できるが、末梢側では手術施行困難である。

症状

徴候および身体所見は,単独例では肺動脈弁狭窄と同様である。すなわち右室収縮期圧により 1)軽症(50mmHg 以下) 2)中等症(50mmHg-体血圧程度) 3)重症(体血圧以上)に分類される。軽症例では生涯を通して無症状であり、中等症のものでも,年少の頃は無症状であり,検診などで偶然発見されることが多い。年長になるにつれ労作時の呼吸困難や易疲労性が出現してくる。重症乳児例では多呼吸・哺乳困難・体重増加不良・頻脈・肝腫大等の心不全症状ある。年長児では簡単な労作での呼吸困難、易疲労性をきたし激しい運動では失神、突然死もあり得る

治療

治療の適応は右室圧で判断するが、肺動脈弁狭窄と同様である。軽症例では治療は不要で、生活運動の制限もない。中等症以上で学童期にある例では運動の部活動を禁止とする。

中心部肺動脈の狭窄であれば手術で拡大できるが、末梢側では手術施行困難である。そのためカテーテルによる治療の試みはあるが、単独例では効果が少ない場合が多い。ただ術後の末梢性肺動脈狭窄には有効例があり試みる価値がある

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_51_65.html